

# 「企業も教育も『人が原点』であることを実感しました」

7月28日～30日の三日間「教員民間企業研修」 / 君津製鉄所・技術開発本部総合技術センター



広報センターで受け入れを企画・実施している「教員民間企業研修」も、今年で3回目となった。これは(財)経済広報センターが、「経済界と教育界のコミュニケーションを促進するため」に実施している活動の一環。次世代を支える子供たちの教育にたずさわる教員の皆さんに、「モノづくり」の大切さや面白さを訴え、それを支える技術力、循環型社会の構築に向けた取り組みなどについて理解をより深めていただくことを狙いに、今年も3日間の研修プログラムを作成し、実施した。

教員の皆さんからは、「新日鉄という巨大な会社を動かしている原動力は何か知りたい」「教育者として、モノづくりの大切さを伝えることが日本にとって重要だと痛感した」「企業研修を教育現場で活かしたい」「長期的視野に立った新日鉄のスタンスに深い感銘を受けた」といった、質問や意見が寄せられた。

## 主な研修内容

### 1日目

#### 「君津の概要」

国内最大の鋼材消費地に立地する中核製鉄所であること、エコプロダクツや高付加価値製品などお客様にご満足頂ける商品を提供し、環境問題、省エネや資源リサイクルなどに積極的に取り組んでいることを紹介。  
(講師/君津製鉄所人事グループリーダー 塚本 治)

#### 「鉄の魅力」

鉄の「クラーク数」(地球に賦存する元素の割合)の高さ、製鉄がどう発展してきたか、銅と鉄の決定的な違いは何か、などさまざまな視点からみた鉄の魅力と可能性について解説。  
(講師/君津製鉄所人事グループマネジャー 永田 俊介)

#### 工場見学

### 2日目

#### 「日本鉄鋼業の現状と展望」

世界の鉄鋼需要の見通しや、中国を中心とした需要拡大などのマーケット動向を概観し、日本鉄鋼業の現状を探る。  
(講師/君津製鉄所総務部長 川口 敬一郎)

#### 「鉄鋼技術の特徴」

鉄の特異性、鉄鋼業の特徴、そして日本の鉄鋼技術の特質である“一貫製鉄技術”の強みについて、プロセス技術の具体的な進化の例を挙げながら鉄鋼技術のすばらしさを紹介。  
(講師/君津製鉄所設備部プロセス開発グループリーダー 村上 英樹)

#### 「鉄鋼のゼロエミッション」

製鉄所における省エネルギー活動と資源リサイクルについて、その基本的考え方、変遷、プラスチックやダストリサイクルなどの具体的事例を交えて紹介。  
(講師/君津製鉄所環境資源エネルギー部長 茨城 哲治)

#### 「新日鉄の広報活動」

社会に開かれた企業であることを目指す新日鉄の取り組みを、企業の社会的責任(CSR)の観点から説明。学習絵本『新日鉄の新・モノ語り』シリーズや、『ニッポン・スチール・マンスリー』掲載の「モノづくりの原点」などの情報発信ツールの狙いや反響、今後の方向性などを紹介。  
(講師/総務部広報センター)

### 3日目

#### 「最先端の研究開発」

新日鉄の競争力の源泉を探る。技術開発本部総合技術センターを見学。

## 教員の方々から

豊島区立南池袋小学校 中嶋 太先生

大きな設備、ダイナミックな製造工程を見て、わが国の工業生産を支えてきた力強さと誇りがひしひしと伝わってきた。また、組織的に連携し合い、雇用の場を守りながら人材を育成しようとする経営方針に感銘を受けた。「会社を動かすのは人である」という言葉に、初めは意外さを感じたが、職業は異なっても根源は同じであると気づき、嬉しく思った。この研修を、人間づくり、学校作りに活かしていきたいと思う。研修の受け入れ体制や、さまざまな情報ツールの作成などに、「熱い思い」を感じた。

大島南高等学校 山寺 佳幸先生

まず工場の大きさに感激し、工場自体が一つの街だと思った。あわせて、鉄鋼業が地元の町をつくってきたという歴史を感じた。何事も「見ること」が大切だ。社員の方々の話を聞いて、中国の存在と影響力についてよくわかった。企業にとって、今回の中国への対応も含め、先が見えない中、どう先を読み対応していくかが勝負だと思った。また、新日鉄では若手の登用も進んでおり、教育界でも参考にすることが多いと思った。今回の研修内容を生徒たちに伝える日が待ち遠しい。中身の濃い3日間だった。

南葛飾高等学校 中村 茂先生

プラスチックリサイクルについて、これだけの手間隙をかけて取り組んでいることに感銘を受けた。こうした社会貢献を先駆けて実行していることについて、もっとアピールしたらどうかと思う。工場、研究所、管理部門と、人材の幅の広さに驚いた。今後、学校で教職員や生徒たちに「鉄」の素晴らしさや新日鉄の環境経営について報告していきたい。

葛飾区立保田養護学校 笹本 一生先生

産業の基盤である鉄をつくる企業を知りたいと思って希望した。研修で得たものは、「企業の経営姿勢」と「人材育成の温かさ」だ。また、児童に実際に「環境教育」をする上で、企業の真剣な取り組みを自信を持って指導できるようになった。環境保全に向けた企業努力を率直に「すごい」と思い、講師の話はどれも生々しくためになった。新日鉄のイメージが変わった。今後日本の産業について指導する際、素材産業、特に製鉄業について積極的に指導教育していく。



三鷹市立井口小学校 山口菜穂子先生

教育現場と製造現場は全く違っていると思っていたが、似ていた。「モノづくりは人づくり」であり、教育が根底にあると思った。企業の「危機感」を目の当たりにし、いいかげんなことが許されないからこそ、これまで厳しい国際競争を勝ち抜いてきたのだと思った。これまで、鉄は硬くて単純なものと思っていたが大間違いだった。鉄は軟らかい。そして着実に進化し、最先端の素材であり続けている。プラスチックリサイクルなどの企業努力は素晴らしく、我々はそうした努力を知るべきだと思う。また、この研修で「企業が求める人間像」を学びたいと思っていたが、「人とコミュニケーションする力」が最も大切なのではと思った。

三鷹市立第一小学校 瀬戸 敬先生

印象的だったキーワードは、「製鉄所は地域との関わりが切り離せない」(学校も同じです)「雇用の場を守る」「働いている場面を家族に見てもらうことが大事」「コンピューターにはできない職人芸がある」「気が付くと社員の方がみんな自己紹介をしていた」「ものづくりってすばらしい！」(子供たちに絶対伝えていきます)「どんな仕事も夢を持つこと」(毎日の現実に追われてそのことを忘れがちです)「利潤追求だけでなく、社会貢献も大事」(新日鉄はすごい)「研究開発費の使い方が大事」(学校もしっかり考える)「先生が熱くなれば、子供も熱くなる」(職場に通じる)今後の教育活動に生かしていきたいと思う。教育もモノづくりも「人が原点」。また、工場見学をして、製造業を支えているのは製造現場だということを痛感した。

## 講師を担当した社員から

- ・「先生の影響力」はとても大きいので、今回の研修が小さな部分からでも何かにつながっていくとすれば素敵なことです。

(君津製鉄所総務部長 川口 敬一郎)

- ・学校で教育されている方々との対話は、お互いの知識の研鑽に役立つと感じました。我々も社会の考え方の勉強になります。

(環境資源エネルギー部長 茨城 哲治)

- ・「鉄鋼技術」は、多様な人材と知識の統合で成り立っています。色々な「学び」や「夢」が、社会で役に立っていることを生徒さんにも伝えていただけるとありがたいと思います。

(君津製鉄所設備部グループリーダー 村上 英樹)

- ・先生方に鉄の面白さ、そして新日鉄をご理解いただき、先生方を通じて子供たちが少しでも鉄、さらには新日鉄を知ってもらえれば嬉しいと思います。

(君津製鉄所人事グループマネージャー 永田 俊介)

教員の皆さんの企業活動への関心はとても高く、企業活動全般、組織運営、商品開発、事故・苦情への対応などについて、企業経営のノウハウを学校教育に活かそうという意気込みが感じられました。より開かれた企業を目指し、こうした活動を継続的に展開し理解を深めていくことは企業の社会的責任でもあります。新日鉄では子供たちを教育する立場の方々への理解活動を含め、こうした活動を今後も継続していきます。(広報センター)